

願いを実現するために～SSRの実践～

不登校や不登校傾向にある児童生徒の心の居場所づくりを目的として、今年度は県内24の小中学校にスペシャルサポートルーム(SSR)が設置され、域内では、昨年度から継続して南会津町立田島中学校に開設されています。

田島中学校では、はじめに、空き教室を利用して「ステップルーム」という空間的な居場所をつくりました。「ステップルーム」の南側には、外を見渡すように生徒の机が並んでいて、訪問した日には、青い空と日差しを受けた愛宕山の紅葉が見えました。部屋にはパーテーションが用意され、まわりの視線が気になる場合にはスペースを区切ることができるようになっています。



訪問した日には、教室の中央で、文化祭に向けた「ビッグアート」の作成に打ち込んだり、タブレット端末で英語の学習に励んだりする生徒の姿が見られました。「ステップルーム」でどんな学習をするかを決めるのは生徒自身です。Google Classroomを活用して、週の時間割を自分で作成しています。

「どこで」「何をするのか」が明確になり、安心できる居場所ができたことで登校機会が増え、本人や保護者の願いである「まずは学校に通うこと」という希望が、少しずつ実現されていきました。多くの生徒や保護者のみなさんが願う次のステップは「学習機会の充実」や「在籍学級への復帰」です。

田島中学校では、タブレット端末を活用して在籍学級での授業の様子をステップルーム内でライブ配信しています。これには、学習機会の充実だけでなく、ステップルームを利用する生徒が在籍学級の雰囲気に触れることで、教室への復帰にもつなげていこうというねらいがあります。



タブレット端末を活用した「自身での時間割作成」や「授業のライブ配信」などの実践は、校内で定期的に開かれている「SSR推進委員会」の中で出された意見をもとに実現された取組です。

「まわりの視線が気になる」など、「在籍学級への復帰」のためには、クリアしなければならないハードルがいくつもあります。このような実態を踏まえて、推進委員会では、「ほかの生徒と上手に関われるように、ソーシャルスキルトレーニングに取り組んでみてはどうか」という意見が上がっているそうです。

令和4年度の全国、そして本県の不登校生徒児童数は過去最高(文部科学省調査)となり、全国での不登校状態からの復帰率は小学校が27.6%、中学校が27.0%と、厳しい状態が続いています。

不登校傾向にある生徒とその保護者の願いを受けて、よりよい居場所づくりを目指して試行を重ねる田島中学校の実践には、参考にしたい取組がたくさんありました。